

広島探訪

～瀬戸内海に抱かれた巖島から原爆ドームへ

仙台市若林図書館
村上 佳子



昨年4月から若林図書館の館長を務めることになり、年末に広島県廿日市市の図書館に出かける機会を得ました。

廿日市市は日本三景の「安芸の宮島」と称される巖島を擁し、訪れた大野図書館はまさに島に渡るフェリー乗り場と同じ地域にありましたので、そのまま巖島に向かうことにしました。その日はやや風があったものの天気恵まれ、海上にそびえるシンボリックな朱色の大鳥居をフェリーのデッキから眺めることができました。



海面に浮かぶ大鳥居、1166年の創建で現存のもののは1875年建立の9代目

巖島は古くから神を奉る場所として島全体が信仰の対象となっていました。そこに推古天皇が巖島神社を開き、平清盛の発想によって現在に残る寝殿造の神社が建造されたと伝えられています。神の島の地面を掘ることを避け、鳥居は海上に、神社そのものも海岸近くに建てられているので、満潮時には神秘的な山を背景に荘厳な神社が海上に出現したかのような景色とのことでした。

巖島から広島市内へは最速、最短距離

の「世界遺産航路」を選びました。巖島を出港すると、牡蠣の養殖筏を左右に見ながら広島湾を高速で進み、市内を流れる旧太田川河口を目指します。河口に入ると、船はいくつもの橋をすれすれの高さでくぐって、ゆったりと遡上していきます。橋の中央にT字路交差点があり路面電車も走るとい珍しい造りの相生橋の所で支流に入ると、原爆ドームが間近に見え平和公園元安棧橋に到着です。45分ほどのクルージングは、瀬戸内海の懷に抱かれて歴史をたどるような時間でした。

翌日は、爆心地一体に広がる平和記念公園内の広島平和記念資料館を訪れました。

本館では、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料が展示され、1945年8月6日、広島の上空600メートルで炸裂した原子爆弾によって広島で何が起こったのかを伝えています。当時の人口が約35万人の広島で、その年の12月までに14万人が亡くなっています。その日の惨禍はもとより何とか助かった人々も日を追うごとに体に異常をきたす放射線被曝の実相が多くの証言や記録によって語られ、胸に迫ります。

2017年にリニューアルされた東館では、核兵器開発と広島への原爆投下の経緯、広島復興への歩み、核の時代と核兵器廃絶に向けての困難な現実等が紹介されていました。核爆弾が史上初めて兵器として広島で使用された事実をたどりながら、第二次世界大戦の終結がもっと早ければと思わずにはいられませんでした。1945年3月には東京大空襲があり、同盟国のドイツは原爆投下の3か月前の5月に無条件降伏しています。ドイツのヒトラー政権がたどった過酷な歴史は

.....

広く知られるところですが、そのヒットラーは降伏の数日前に自ら命を絶っています。そして、7月26日には対戦する連合国側がポツダム宣言により日本に降伏を求めますが、日本はそれを無視する立場をとり、その先に広島、そして長崎があり敗戦への道をたどったのは歴史の現実です。

結果的に原爆投下が戦争を終結させたと言われますが、もっと早く対戦国との交渉を探る道はなかったのかと嘆きとも憤りともいえる思いに駆られながら資料館を後にしました。



記念館前の広場に建つ原爆死没者慰霊碑

今回の広島行きを機に何冊かの本を改めて手にとりましたので紹介してみます。

『ピカドン』（丸木位里・丸木俊 著 小峰書店）初版は1950年8月6日、世界で最初の原爆絵本。占領軍から発売禁止の命令を受け、原画は今も見つかっていません。モノクロのペン画と素朴なことばで原爆が落とされたその日の様子が描かれています。広島のお婆さんが孫に語り続けるという設定で、「ピカは山崩れたあちがう、人が落とさにな落ちてこん」との最後の言葉が胸に刺さります。初版をもとに復刻版が出され図書館でも見ることが出来ます。

『ヒロシマ・ノート』（大江健三郎 著

岩波新書）1965年に出版され現在も版を重ねられているノーベル賞作家のレポート。1963年の第9回原水爆禁止世界大会に際して広島を訪れた著者が、核兵器廃絶を目指す活動が政治運動に翻弄されていくありさまと、最も過酷な日々を過ごし20年近くも忍耐しつづける広島の医師や市井の人々との出会いを、作家の深く鋭い視線で記します。口絵やカットには上記の『ピカドン』の絵が使われています。

『父と暮せば』（井上ひさし 著 新潮文庫）原爆投下から3年後の広島を舞台とする父と娘の二人芝居、初演は1994年。仙台で高校時代を過ごし仙台文学館の初代館長を務めた井上の代表作の一つで、東日本震災後の2011年8月に仙台でも上演されました。広島で生き残った娘の幸せな恋を求める心と亡くなった者への贖罪と絶望の心情が、時にユーモアをもって演じられ大きな感動を呼びました。戯曲作品として文庫版も出版されています。



広島の旅では名物のアナゴ料理を楽しむこともできました。厳島に向かうフェリー乗り場の近くにある老舗は趣のある古民家で、2階のお部屋でいただいた昼のコースはとて美味い深いものでした。